

くどう市長と語ろう！

ふれあいトーク

(第26回)



日 時 令和6年7月20日(土) 14時00分～

場 所 富士見コミュニティセンター

《内 容》

参加者 23名

◆ はじめに、工藤市長から、挨拶と市政の近況報告として、新型コロナウイルス感染症拡大から今日までの市政運営を振り返り、以下について説明しました。

・新型コロナウイルス感染症の拡大

令和2年度のコロナ、また、第11波のニュースが流れており、いつになったら終わるのか。最初は、飲食店、喫茶店、今度は国民に、それから毎年のように、あちこちを支援、このつけは若い世代の人たちが、この後、負担しなければならず、大変なことと思っています。

・財政状況について

ほとんどのまちが使うお金の3割ぐらいしか稼げない、いろいろなやり繰りを考えながら、日々、市政運営を行っています。この先を考えたときに家庭で言う借金はできるだけ少なくしたい。貯金はできるだけ多くし、それを次の世代につなげていきます。

・稚内空港の民間委託について

令和2年、稚内空港が民間委託となりました。当時、空港ビルを新しく建て替え、道の駅のような機能を持たせようとしていましたが、コロナ禍により話しが進みませんでした。これから新しい空港ビルの改築に向かって進んでいくものと考えています。

・みどりスポーツパークの開設

令和2年、子どもたちのウィンタースポーツのためのカーリング場を検討しましたが、ほか剣道、柔道、他のスポーツも含め、様々なことに取り組むことができるスポーツパークをグランドオープンしました。カーリング場は子どもたちにもっと親しんでほしいと思っています。

- **藤田征樹選手のパラリンピック出場**

令和3年、東京オリンピックパラリンピックが開催され、藤田征樹選手が4回目のパラリンピックに出た年で、東京の次は体力的に厳しいと思っていましたが、今回、また、パラリンピックに出ると言うのはすばらしいことと考えています。

- **新型コロナ検査場について**

令和4年、コロナでひどい状況でした。行政連携型で、吉永小百合さんの映画の縁で、木下グループの協力をいただきながら、ポートサービスセンターで検査場を開設することができました。

- **再生可能エネルギーの推進について**

第3セクターで民間企業をつくり、民間が発電している電気を市民に還元したいと取り組んでいる最中です。送電線や蓄電池が去年の4月に完成し、その間、コロナで人が動かない時期に工事の関係者が来てくれたので、結果として経済も守ってくれました。

風車の部材で港が一杯であり、輸入という観点からも、この流れを絶やしたくありません。データセンターは稚内にある意味が出てきたと聞いており、事業に結びつくよう取り組んでいきます。

- **新庁舎の整備について**

新庁舎は昭和42年に供用を開始し、57年経ちます。災害があったときにロビーに逃げてこられるような、しっかりした庁舎を今、つくっています。再生可能エネルギーである地中熱を使った庁舎にする予定です。

- **稚内中学校の整備について**

中央小と稚中を一緒にして、統一的な運営を進め、子どもたちがスムーズに教育を受けられる環境を整備します。学校の体育館は市民も一緒に使える体育館にします。

- 市立稚内病院の充実について

開業医は助成制度により5人来ていただきました。市立稚内病院は4月で41人体制となり、泌尿器科、循環器内科など、少しずつ充実してきています。会計のときにアプリを利用して、待ち時間を別なことに使えるようにしました。これからも利便性を高めていきたいと思っています。

- ◆ ふれあいトークで話し合われた内容は、以下のとおりです。

1. 人口流出の抑制や移住者の増加について
2. 限界集落への対応について
3. 西浜の防災について
4. 鹿・アライグマの駆除について
5. 西浜漁港の利用について

1. 人口流出の抑制や移住者の増加について

●参加者からの意見、質問

- ① 人口減対策は少子化対策も重要ですが、移住者を増やす、今いる市民が外に流出しない施策が重要と考えています。市の移住体験住宅が停止されています。移住や稚内に関する知識など、稚内のことを知ってもらうソフトの部分も重要です。良い形で再開していただきたいと考えています。
- ② 本市の若者が一人でも多く育英館大学に進学して、稚内に住んでもらうことは重要だと思います。そういう効果を見込んで、毎年5,000万円を寄付しているという理解でよろしいでしょうか。費用対効果の検証はどうなっているのでしょうか。

●市長の発言

- ① コロナの時はDXが進む社会の中で、人は地方に出る、仕事のパターンも生活のパターンも変わると言われました。住むという観点では本市の方ではなく、近郊の栃木や千葉、茨城に向かっています。距離は何にもましてマイナスの要因で、空港の便数、仕事、高齢者の移住など、いろんなバランスを考えなければならず、良い環境にはありませんが、それを一つ一つ乗り越えていかなければならないと思っています。
- ② 大学は5年前にやめる、やめないの決断を迫られ、雇用、人口流出のほか、長い目で幼稚園から大学までを一貫したキャリア教育を進め、このまちに愛着を持つ子どもたちを育てたいという教育関係者の意見もあり、大学は必要だと判断しました。大学の経営はこのぐらい

の支援がないと目的の実現は難しいと考え、助成を判断し、議会にも理解をいただきました。詳しくは教育委員会がどこかの場で、市民の皆さんに説明してもらわなければなりません。経営は安定しました。今年、5年が切れるのできちんと説明して、次どうするかという話しをしていかなければならないと思っています。

2. 限界集落への対応について

●参加者からの意見、質問

この地域は限界集落となっています。高齢化や過疎化で町内会活動など地域が成り立たなくなってきたことに対して何か良い知恵はないでしょうか。

●市長の発言

ここは山間で日常生活が区切られている、或いはまちの中から遮断されているようなところではありません。人口減については、外国人も他所の国に比べると入って来る条件が厳しい。以前の総合計画では人口が一つの目標となっていました。平成を迎えた頃から、このまちの人口は減るが我々は2万人に抑えるとしています。社会増減はそんなに変わっていませんが、自然増減が変わってきています。

ここは時間、距離は決して離れているところではなく、全体として人口減少に取り組む必要はありますが、限界集落として何かをするということは考えていません。

3. 西浜の防災について

●参加者からの意見、質問

避難場所が山側にいくつかありますが冬季間には行けないので、他の避難場所の確保や夕陽ヶ丘パーキング場が避難場所になっているので、冬期間開けて欲しい。

西浜交流センターの避難場所への指定と旧西小中学校が避難場所に指定されているが、水を使えるようにして欲しい。

●市長の発言

高い山へ行く道路、階段を整備するにも760平方キロを満遍なく災害から守る財政力は基本的にはありませんが、住まれている方は不安なので、所管課にはそういう観点ですり合わせてほしいと話しています。夕陽ヶ丘パーキングのトイレの話もありましたが、根本的な解決にならないという思いはしています。

旧西小中学校の水道は使えるという話でしたが、住んでいる人への説明が足りません。また、指定避難所と指定緊急避難場所は一時的に退避する場所と、何日間かそこに暮らすことを前提にしている場所と本来違うとしていますが、住むことを前提に考えるべきで、今後、議論を進めていきます。

地形からして何か起きた時にどうするか、地域の声を聞きながら一緒に考えていきます。

4. 鹿・アライグマの駆除について

●参加者からの意見、質問

鹿・アライグマの数が減りません。市の方で駆除に苦勞いただいておりますが、強化をお願いします。最近では熊の出没も相次いでおり、パトロールの強化や情報の共有をお願いします。

●市長の発言

鹿やトド、アザラシ、アライグマは管内の首長で北海道にもっと取り組んでほしいという話しを毎年しています。鉄砲で撃つと鳥獣保護との関係で軋轢を生んだり、どんどん獲ると処分場がもたないなど色々な話しもあります。

熊は何をするかわからないのもっと深刻な話しになります。間もなく関係者で出没時の訓練もしますが、郊外に出るのは珍しくないけれども、今年は人の住んでいる所に出始めてきました。面白がって合成写真を作る人もいます。命に係わることだと理解させなきゃならない、一方では熊の出没も抑えなければならぬ。

アライグマは箱罠で捕まえるのが主流ですがマンパワーが不足しています。箱罠は使っていないのがあるので、ぜひ、地域で使っていただきたいと思っています。

5. 西浜漁港の利用について

●参加者からの意見、質問

お盆を過ぎるとサケ釣りの方が多く来ます。地方からの車も沢山来ているように思います。困っているのが昼夜の車の騒音とトイレがないことで、一番近い所が夕陽ヶ丘パーキングエリアで、仮設のトイレだけでも観光客も来るので至急補修を働きかけていただきたい。サケ釣りの方に何か規制をかけられないものかと思っています。

●市長の発言

今始まった話しではなく、トイレがあればあつたで魚を解体したり、腹だけ取って投げていく、どこの地域も苦労しています。関係者で、パトロールしたり、チラシを配ったりしていますが全然防げません。海保にも話しをしていますが、中央へも要請しなければならないと考えています。他所のまちで釣りを制限したり、様々な規制に取り組み始めています。皆さんと一緒に何らかの方法を考えていきます。

ご参加いただいた皆さんから、さまざまなご意見をいただきました。
お忙しい中、ご参加いただきましたことに、心から感謝申し上げます。
ありがとうございました。